

明治時代に 大阪で開催された博覧会

令和7年(2025年)、「大阪・関西万博」が大阪市の夢洲で開催されました。

大阪の博覧会といえば、千里丘陵での「日本万国博覧会」(昭和45年(1970年))や鶴見緑地での「国際花と緑の博覧会」(平成2年(1990年))を記憶されている方も多いでしょうが、実は明治時代にも開催されたことがあったのをご存知ですか？

それは、「第五回内国勸業博覧会」といい、当時植民地であった台湾を紹介する「台湾館」や18カ国が出品した「参考館」なども設置され、「名は内国勸業博覧会と云うといえども、その実は他年本邦において開催さるべき、万国大博覧会の端緒を今日に開きたり」(明治36年(1903年)3月1日大阪毎日新聞)と報道されています。

今から120年前に大阪で開催された博覧会について、調べてみましょう。

1. 参考図書(事典・年鑑など)で調べる

『年表で見るモノの歴史事典 上』 ゆまに書房 1995年(R031)

日常にあふれる様々な物事(上下巻で約150点)の年表が収録されている。博覧会の項目を調べると、1851年ロンドン万国博覧会から1988年ブリスベン開催の国際レジャー博覧会までの年表が掲載されている。表には会期、会場、入場者数、日本の出展および建築物、概要・特徴が記載。第五回内国勸業博覧会の特徴欄には、「四天王寺本坊の日本庭園の中に当時の休憩所が現存」(P895)とある。

『明治ニュース事典 第7巻 —明治36年—明治40年』

明治ニュース事典編纂委員会：編 毎日コミュニケーションズ 1986年(R070)

各巻5年区切りで8巻まであり、その期間にあった物事の名前が50音順に掲載してある。内国勸業博覧会の項(P397~P399)を引くと、新聞各紙の報道記事により、混雑する会場の様子や冷蔵庫に人気が集まる様子等、当時の情景がうかがえる。

『20世紀全記録 —Chronicle 1900-1990』 増補版 講談社 1991年(R209.7)

毎月ごと「月表」に、日本と外国の主要な出来事を、日付を付して収録してあるので、歴史の流れが一目で見渡せる。1903年に開催された第五回内国勸業博覧会は、記事としてピックアップされている(P54)。その隣には4月の記事として「ロシア軍満州から撤兵せず」が載っており、翌1904年の日露戦争勃発までの道程も見えてくる。

『明治時代史大辞典 第2巻（さ～な）』 宮地 正人[ほか]：編 吉川弘文館
2012年（R210.6）

明治時代への理解を深める総合歴史大辞典。「博覧会」については、P 909～P912 で第1回～第5回までの錦絵や写真とともに説明している。第5回について、「娯楽という要素が大きく加わり、博覧会の遊園地化が始まった」という解説も興味深い。

2. 図書で調べる

『新修大阪市史 第6巻』 大阪市：編 大阪市：発行 1994年（H216.3）

大阪市の歴史をまとめた叢書で昭和63年(1988年)発行の第1巻から平成25年(2013年)発行の第15巻まで。第6巻第2節「日露戦争と行財政」の筆頭に「第五回内国勧業博覧会と市政」がP 34～P 47にわたって記されており、誘致運動から博覧会の影響までを当時の行政資料からの抜粋文や写真を添えて説明してある。

『大阪百年』 松村英男：編 毎日新聞社：発行 1968年（H216.3）

「博覧会」については、P 71～P 74までと短いですが、会話文や情景描写がイキイキと描かれ、物語としてさらりと読むことができる。昭和43年（1968年）発行当時の大阪府知事である左藤義詮の序によると、「本書の第一冊を、万国博記念事業のタイム・カプセル」に納めたいというのも興味深い。

『図説万国博覧会史 1851-1942』 吉田光邦：編 思文閣出版：発行 1985年
(606.9)

各国の万博会場の鳥瞰図や平面図、展示会場や式典に参加する群衆図など、精密に描かれた図はどれも見応え充分。他国の万博に出展した日本館の図絵も掲載。「第五回内国勧業博覧会」についての記述は、P 176「幻の万国博」にわずか数行あるのみだが、この博覧会の成功をきっかけに明治45年（1912年）、昭和15年（1940年）の2度にわたる万博開催計画までの道筋が説明されている。特に昭和13年（1938年）に中止が決定した万博については、会場図や建物の景観図・ポスター・万国博行進曲の譜面まで掲載されている。

3. 雑誌で調べる

『大阪人』 平成15年（2003年）11月 Vol.57 大阪都市協会：発行

大正12年(1923年)に『大大阪』として創刊。戦時中の休刊を経て昭和22年(1947年)に『大阪人』へ改題し復刊すると、その後は大阪にまつわる様々な情報を発信する雑誌として発行を続けてきたが、平成24年(2012年)5月号をもって休刊した。Vol.57では「博覧会シティ・新世界」という特集で「1903 第五回内国勧業博覧会見聞録」をP 33～P 47に掲載。豊富な写真と淡い水彩画の挿絵で楽しく紹介している。

『大阪春秋』 平成 22 (2010) 年秋号 140 号 新風書房：発行

「大阪の歴史と文化と産業を発信する」という副題のついた季刊誌。昭和 48 年 (1973 年) 11 月の第 1 号以来発行を続けてきたが、令和 3 年 (2021 年) 春号の 182 号をもって終刊した。古地図・古書画などを復刻印刷し、付録として毎号はさみ込んである。No.140 では特集「大阪と博覧会」が生まれ、内国勸業博覧会の記事も多数の写真とともに掲載されている。付録には、第五回内国勸業博覧会会場鳥瞰写真とその裏面に、会場案内図・会場平面図が印刷されたものが一枚付いている。

4. データベースで調べる

「国立国会図書館デジタルコレクション」(枚方市内各図書館でご覧になれます)

国立国会図書館で収集・保存しているデジタル資料を検索・閲覧できる。昭和 62 年 (1987 年) までに受け入れた図書、議会資料、法令資料及び児童書のうちの約 120 万点、雑誌 1.2 万タイトル、古典籍資料約 10 万点、官報 (明治 16 年 (1883 年) 7 月 2 日～昭和 27 年 (1952 年) 4 月 30 日)、博士論文約 15 万点などを収録している。これにより、『大阪市政 70 年の歩み』や『第五回内国勸業博覧会要覧 上巻』、『第五回内国勸業博覧会美術出品目録』、『大阪と博覧会』などを閲覧することができる。

「明治の読売新聞」(中央図書館 5F 参考資料室でご覧になれます)

明治 7 年 (1874 年) 11 月～明治 45 年 (1912 年) 7 月までの読売新聞の記事を検索・閲覧できる。キーワードに「内国勸業博覧会」と入力し、期間を明治 36 年 (1903 年) 3 月 1 日～7 月 31 日として検索すると、132 件の記事がヒットする。当時の賑わいを臨場的に感じることができる。

5. インターネットで調べる

国立国会図書館ホームページ > 電子展示会

「博覧会 - 近代技術の展示場」 <https://www.ndl.go.jp/exposition/index.html>

「第 1 部 1900 年までに開催された博覧会」に「第 5 回内国勸業博覧会 最後にして最大の内国博」という節がある。写真や錦絵も掲載されている。

大阪市立図書館ホームページ > 大阪市立図書館デジタルアーカイブ

https://image.oml.city.osaka.lg.jp/index_d.html

「内国勸業博覧会」で検索すると、当時人気のあった遊技機やテーマ館の画像などのデータが出てくる。資料名をクリックすると大阪市立図書館デジタルアーカイブが開き、出典資料の詳細がわかる。

外務省ホームページ>外務省案内>外務本省>外交史料館

「外交史料に見る日本万国博覧会への道」

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/honsho/shiryo/banpaku/>

平成 22 年（2010 年）7 月 5 日（月）～10 月 29 日（金）に開催された外務省外交史料館特別館展示。第五回内国勸業博覧会についての記述はないが、日本での万博が実現するまでの 100 年あまりを、外交史料館所蔵史料で振り返ることができる。展示解説と主な資料の解説書を読むことができる。

国立公文書館 アジア歴史資料センター

<https://www.jacar.go.jp/>

アジア歴史資料センターは、インターネットを通じて、国の機関が保管するアジア歴史資料（原資料＝オリジナル資料）を、パソコン画面上で提供する電子資料センターであり、国立公文書館において運営されている。（<https://www.jacar.go.jp/about/outline.html> より）

キーワード検索を行うことによって、第五回内国勸業博覧会開設延期の御署名原本（憲法、詔書、法律、条約、勅令などを上諭（天皇の裁可を示す文書）により交付する際の、御名・御璽を付した文書の原本）や、開催年及び開催地を決定した際の公文書などを閲覧することができる。



「第五回内国勸業博覧会」大阪市立図書館デジタルアーカイブより

「お問合せ先」

枚方市立中央図書館 参考資料室

☎573-1159 枚方市車塚 2 丁目 1-1

MAIL : toshokan5-1@city.hirakata.osaka.jp

T E L : 050-7105-8150

F A X : 050-7105-8152

「パスファインダー」とは、「道 (path) 」を「見つける人 (finder) 」という意味で、知りたいことを調べるのにどのように資料を探したらよいかを示す手引きのことです。